

令和 4 年 3 月 9 日



2022 年度分ベースロード取引市場(第 4 回オークション) に係る監視について

電力・ガス取引監視等委員会は、本年 1 月に日本卸電力取引所において実施された 2022 年度分ベースロード取引市場(第 4 回オークション)について「ベースロード市場ガイドライン(以下、「ガイドライン」という。)」に基づき、ベースロード市場に供出を行った大規模発電事業者の供出上限価格に関する監視を行いました。

本日、第 4 回オークションに関する監視結果を取りまとめましたので、以下の通り公表します。

〔1〕 第 4 回オークション結果の概要

- 第 4 回オークションの約定量及び約定価格は以下の通り。
- 約定量は、北海道市場では約定なし、東日本市場で 8.0MW (年間 0.70 億 kWh)、西日本市場で 50.0MW (年間 4.38 億 kWh) であった。
- 約定価格は、東日本市場で 14.87 円/kWh、西日本市場で 14.50 円/kWh であった。
- なお、今回のオークションは、大規模発電事業者のベースロード市場への参加は任意である。

	約定量	約定価格
東日本	8.0 MW	14.87 円/kWh
西日本	50.0 MW	14.50 円/kWh

〔2〕 第 4 回オークションの監視結果

- 電力・ガス取引監視等委員会において、ベースロード市場に供出を行った大規模発電事業者の供出状況について詳細な分析を行うとともに、各事業者からその考え方等を聴取すること等により、ガイドラインに基づく取組がなされていたかどうか確認したところ、以下の通りであった。
 - 各大規模発電事業者のベースロード市場における供出上限価格は、いずれもガイドラインに沿った方法で設定し、それ以下の価格で市場への供出を行っていることを確認した。
 - ただし、発電コストのうち特に燃料費については、合理性のある算定になっているか、翌年度以降も引き続き注視して監視を実施する。

〔3〕ベースロード取引市場の活用状況（2021年度全4回）

- 2021年度のベースロード取引市場における全4回のオークション結果を総括すると、売り入札量は最大で752.60億kWh（第1回オークション）であり、新電力の年間販売電力量※に対して49%に相当する量が供給されている。一方で、約定量は4回合計で65.54億kWhであり、新電力の年間販売電力量に対して4.2%に相当する量にとどまっている。
- 小売電気事業者は、スポット市場の価格や需要の変動リスクを定量的に評価し、そのリスク量が経営体力の範囲内に収まっていることを定常的に管理するとともに、ベースロード市場で受け渡しされる商品がリスクヘッジの一つの手段になる点に考慮した入札を行うことが望ましい。

※電力取引報によれば、新電力の年間販売電力量（2020年4月から2021年3月）は1,530億kWh（沖縄エリアを除く）。

オークション	売り入札量 (億kWh換算)	買い入札量 (億kWh換算)	約定量 (億kWh換算)	買い約定率 (約定量/ 買い入札量)
2021年度第1回	752.60	302.22	3.39	1.1%
2021年度第2回	748.83	271.33	8.01	3.0%
2021年度第3回	740.79	275.83	49.06	17.8%
2021年度第4回	40.34	246.05	5.08	2.1%

(以上)

(本発表資料のお問い合わせ先)
電力・ガス取引監視等委員会事務局
取引制度企画室長 東
担当者:住田、水町、神田
電話:03-3501-1552(直通)